

## 報告要旨

### **The Imitative R&D in the Schumpeterian Growth**

関西大学 非常勤講師  
小林かおり

多くの企業は、最先端の技術を開発しようとR&Dに力を注いでいる。なぜなら、いったんイノベーションが起これば、開発した企業は市場支配力を強めることができる知っているからである。しかし一方で、生み出された新しい技術や知識は、誰もが自由に得ることができるという側面を持っており、すぐに他の企業やあるいは他の国に広く普及するであろう。このように考えれば、イノベーションに成功した企業よりも低コストで、同品質の製品を作成できる企業が現れるのは当然である。もしイミテーションに成功し、オリジナルの開発者と市場に共存できるのであれば、多くの企業が模倣するためのR&D活動を始めるに違いない。

本稿では、イミテーションの存在がイノベーターと経済成長にどのような影響があるかについて、Aghion and Howitt (1992) 型のモデルを用いて検証する。分析にあたり、本稿のモデルでは Davidson and Segerstrom (1998)と同様に、イミテーションはイノベーションと同品質であるが、わずかな特徴をもってイノベーションとは区別されると仮定する。また、条件を設定することによりイノベーターとイミテーターが市場に共存できるものとする。その結果、イミテーターがイノベーターと同水準の技術や知識の開発に成功すれば、イノベーターのインセンティブを阻害し、経済成長にも悪影響を及ぼすことを示す。